



七大戦 in 祝津

平素よりお世話になっております。
第九十代京都大学体育会ヨット部主将の森田颯斗と申します。7/19(土)-7/21(月)にかけて小樽祝津ヨットハーバーにて開催されました第64回全国七大学総合体育大会についてご報告させていただきます。

今大会は、「完全優勝」を目標に臨みました。「完全優勝といっても470級・スナイプ級・総合において全て優勝するだけでなく、サポート力やエールの質、陸上における行動などレース成績以外の面においても他大学を圧倒することを目指しました。「勝つべくして勝つチーム」そして「周りから応援されるチーム」になることが、我々の目指している“誇れる”チームになるために、必要だと考えているからです。

結果的には風がなかなか安定しない中、2日間で3レース行われて470級2位、スナイプ級優勝、総合優勝と目標にしていた「完全優勝」には惜しくも届かなかったものの2年ぶりの総合優勝を果たすことができました。また、サポート力や陸上の行動やエール交換においても他大学を上回ることができたのではないかと自負しております。これは、約90人の部員が各々自身の役割を全うできた結果だと思っています。来年こそは1996年以来の“完全優勝”を成し遂げてほしいと思います。

今年度の次なる目標は、「全日本インカレ総合4位」です。残り3ヶ月、部員一同目標に向けて邁進いたしますので引き続きご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。

七大戦 沖状況

お世話になっております。4回生470級クラスリーダーの原田です。今回は7/19~21に小樽市祝津ヨットハーバーで開催されました、全国七大学体育大会（通称：七大戦）について報告させていただきます。私は今大会、レスキュー艇の指揮者として、選手が実力を最大限に発揮できるようなサポートに努めました。レスキュー艇では、交代選手たちがレースに出たい気持ちを抱えながらも、潮や風の情報を貪欲に集めてくれました。その姿はまさに「日本一のサポート」だったと確信しています。特に印象的だったのは2日目の第1レースです。陸上チームからの的確な情報をもとに、他大学より早く逆方向から来る風と潮を掴み選手に伝達。これが470級の会心のワンツーフィニッシュに繋がり、陸・海・選手が一体となった瞬間でした。結果は総合優勝で昨年の雪辱を果たしましたが、470級は九州大学に1点差で2位と、目標の完全優勝には届きませんでした。この悔しさをバネに、全日本インカレでは必ず総合4位を達成できるよう、チーム一丸となって精進してまいります。



七大戦 陸状況

お世話になっております。2回生スナイプスキッパーの奥山蒼空です。7月19日から21日にかけて北海道の小樽で行われた七大戦で私は陸サポート隊長として、それぞれの配置に必要な人数を考えたり、部員それぞれの特性を鑑みながら配置を考えました。チームとしては総合優勝で終わったので、嬉しくはありますが、陸サポートのメンバーとの連携不足もありました。今回はペナルティがつきませんでしたでしたが、本来ならペナルティを履行し、総合2位になっていたところでした。今回のミスを通して、サポートメンバーのミスでも命取りになるということがよく分かりました。インカレではサポートをミスなくこなし、部員全員で喜びを分かち合いたいです。



メイレガッタ 470級

お世話になっております。4回生470スキッパーの溝脇大智です。京大ヨット部では「新歓はインカレの次に大事な行事」という考えのもと、毎年4月の1ヶ月間、全員で新歓を行っています。本大会はその新歓期間直後に開催されたため、動作の質やレースの勘が鈍っている部員が多い印象でしたが、今後のレースシーズンに向けて多くの改善点を見つける良い機会となりました。私にとっては、同期の野本とペアを組んで初めてのレースとなりました。1レース目では、自艇の時計が7秒進んでいることに気付かず非常に良いスタートを決めて4位でフィニッシュできたことが印象に残っています。引き続きご支援・ご声援のほどよろしくお願いいたします。



メイレガッタ SNIPE級

お世話になっております。4回生スナイプクルーの高槻です。5月3日・4日に柳ヶ崎ヨットハーバーで開催されたメイレガッタについてご報告いたします。初日は南の陸風による不安定な軽風下で5レース、2日目は比較的安定した北風で1レースが行われ、全体として軽風シリーズとなりました。自艇はチューニングが合わず角度が出せず、艇団とセパレートせざるを得ない場面が多く、苦しい展開となりました。一方で、スタート位置の選択やランニングの角度、ライン感覚など、今後に活かせる収穫もありました。この経験を糧に、今後のレースでも成長できるよう努めてまいります。最後になりましたが、運営に携わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。



BSC 470級

お世話になっております。4回生470クルーの玉木です。今回は、6月7日、8日に行われた、琵琶湖セーリングチャンピオンシップ（通称：BSC）について書かせていただきます。当大会は、470級にとっては、全日本470選手権の出場がかかった非常に重要な大会です。部員もそれぞれ目標をもって大会に挑みました。

自艇は、準優勝を目標達成としておりました。結果としては、1日目は5位。2日目に13-6位で、合計7位で大会を終えました。目標とはだいぶ遠い順位となってしまう、内容としても課題の多かったレガッタとなりました。

けれども、全日本470選手権の出場枠を獲得出来たことは、たいへん嬉しく思います。このレガッタで得た反省点を見つめ直し、これからの全日本470選手権や全日本学生選手権では改善出来ているように精進いたします。お読みいただきありがとうございました。



BSC SNIPE級

お世話になっております。4回生スナイプスキッパーの宮本です。6月7日・8日に開催された琵琶湖セーリングチャンピオンシップについて報告します。

今大会は軽風で、初日に北風で1レース、2日目に南風で1レース実施されました。選手としては風待ちの時間が長く、集中力を保つのが難しいレガッタでした。また、2日目はスタートでゼネリコを繰り返し、ブラックに引っかかる艇も多く、リコールの恐ろしさを実感したレガッタでもありました。自艇は初日は苦戦しましたが、2日目は良い走りができ、最終4位で全日本スナイプの出場枠を獲得できました。レベルの高いレガッタに出場できる良い機会なので、しっかり成長できるように頑張ります。

最後に、サポートしていただいた皆様、ありがとうございました。今後とも応援よろしくお願いいたします。



Sail Hiroshima

平素よりお世話になっております、2回生470スキッパーの近藤柊星です。今回は5/24、25にかけて広島県の観音マリーナで開催されたセイル広島について報告させていただきます。まず今回の遠征は僕たち92期8人のみで行く初の遠征ということもあり色々不安はありましたが、無事に遠征を終えることができ良かったです。1日目はあいにくの大雨でレースを行うことは出来ませんでした。2日目はオンデッキからフルパワーほどの陸風が入り5レース行うことができました。自艇はトラブルにより3レースにしか出ることができませんでしたが、結果としては慣れない艇や海面であること以上に自分の苦手なことがはっきりと表れたと感じました。広島県は海が周りが陸地や島に囲まれていることもあり海に特有の大きな波などはあまりなく、また陸風ということもあり琵琶湖の三井寺と似ていたものの三井寺以上に風の振れやブロー差が大きいように感じられ難しかったです。この遠征での経験を今後に生かしていきたいと思います。

またセイル広島への出場にあたりサポートしていただいた広島大学様と広島修道大学様に心より感謝申し上げます。



オリンピックウィーク

お世話になっております。3回生470スキッパーの熊川琳哉です。5月中頃に開催されましたEnoshima Olympic Week 2025について報告させていただきます。Olympic Weekは昨年度も参加した大会で、今年度もインカレ本戦が江ノ島で行われるということで、江ノ島でのレース経験を積むために出場しました。自艇としては想定よりも低い順位となることが多く課題が見つかるレースシリーズとなりました。特にスタートを含む序盤の展開が悪く艇団の中に埋もれてしまうことが多く、そこから巻き返していくことの難しさを実感しました。秋の全日本インカレでも同じような展開となることが予想されるので、ここで見つかった課題を夏の期間で1つずつ克服していけるよう練習を積み重ねていきたいと思います。



夏季大会 470級

お世話になっております。2回生470スキッパーの藤田陽向です。6月27日から29日にかけて石川県滝港マリナで開催された令和7年度近畿北陸学生ヨット夏季大会のご報告をいたします。今大会は初めての外洋でのレースであり、緊張もありましたが、軽風域でのコンディションであったことから、普段は前を走っている選手と並走する場面も多く、非常に多くの学びと刺激を得ることができました。また、初めて最終成績でシングル順位を獲得し、日頃の練習が成果として確認できたことは、大きな励みとなりました。一方で、軽風時のフリーでの速度不足という課題も見つかったので今後の練習で克服していきたいと思います。



夏季大会 SNIPE級

お世話になっております。3回生スナイプスキッパーの鳥越です。6月27日から6月29日にかけて石川県滝港マリナで開催された令和7年度近畿北陸学生ヨット夏季大会のご報告をいたします。本大会ではほとんどのレースが微軽風のコンディションで行われました。自艇は春から微軽風のボートスピードが出ず悩まされていたのですが、自主練でコーチの峰岡氏に指導していただいたり、ペアや先輩、コーチの方からアドバイスをいただいたりしたことでかなり艇速が改善した状態でレースを迎えることができました。それにより、トップ艇団の中で走る経験をするのですが、その一方で上位の艇に比べて艇速、動作、戦略などの全ての面で劣っていることを痛感させられることにもなりました。本大会で得られた貴重な経験を糧に練習に励みたいと思います。今後とも応援よろしくお願いします。



夏季大会 マネージャー

平素よりお世話になっております。4回生マネージャーリーダーの上野莉子です。6/27-6/29に行われた夏季大会について報告します。レースの行われた2日間は軽風コンディションではありましたが、最大レース数である8レースを消化して終了しました。私は2日間とも470レスキューに乗っていました。非常にテンポが速いレースで最初は戸惑いましたが、集中力を切らずに最後までサポートすることができました。スナイプレスキューと協力して、潮や風の情報を共有してヨットに伝えることを意識しました。沖と陸の迅速な情報共有のおかげで、サポートによるミスはなく、レースを終えることができました。目標として掲げていた完全優勝には至りませんでしたが、マネージャーチームとしては団体戦に向けたサポート体制の基礎固めができたレースになりました。



近畿北陸学生ヨット個人選手権大会 470級

お世話になっております。4回生470スキッパーの上中です。7/5-7/6に石川県羽咋市滝港マリナで開催された個人戦予選のご報告をいたします。

ご存知の通り近年の近北水域は同志社、立命、京都等の大学が個人戦の6枠を争う全国的にも随一の激戦区となっています。北陸開催ということで京大は地の利を得るため、羽咋で前入り練習をして大会に臨みました。当日は海風・中強風の大きなうねりがある中、8レースが実施されました。結果は上中/玉木が2位、熊川/金子が3位と2艇が全日本個人戦への枠を獲得しました。長らくkuyc470の弱点であったうねり強風でしたが88、89代と継続した遠征やコーチング、春に実施した高山大智氏によるコーチングなどを経て上位の艇のボートスピードが同志社とも対等なレベルにまで向上したことが結果に現れ、ここまでの取り組みの自信となりました。

一方で、自艇と同志社のエース艇との間には依然大きな差がありました。夏の長期遠征を通じ差を埋めようと思っておりますので、今後ともご支援・ご声援を宜しくお願いいたします。



近畿北陸学生ヨット個人選手権大会 SNIPE級

3回生スナイプクルーの山田です。

7月5日・6日に石川県羽咋市で開催されました近畿北陸学生ヨット選手権個人戦予選のご報告をさせていただきます。自艇は、本番1週間前に行われたプレ以降も現地に残り、継続して練習を行いました。ペアとの擦り合わせを経て、予選本番に向けて良い調整ができていたと感じています。しかし当日は、平日の微軽風とは打って変わり、強風かつ波の高いコンディションとなりました。ペア体重が足りず、波に翻弄される場面も多くありましたが、帆走力で粘り強く順位を上げ、1-2-1-3-5-2-3-(7)と安定した成績で予選を終えることができました。目標としていた予選首位通過を達成することができ、嬉しく思っております。

一方で、動作の正確性やハイクアウトの強度、強風下での自分のキャパシティなど、今後に向けた課題も明確になりました。

8月末には蒲郡にて全国大会が控えております。小さな取りこぼしを無くし、全国の舞台でも頂点を目指して、残り1ヶ月間しっかりと練習に励んでまいります。



クラス分け

お世話になっております。1回生の西明賢です。1回生のクラス分けについてご報告いたします。スナイプクルー5名、470クルー5名、470スキッパー4名については、希望通りにスムーズに決定いたしました。一方、スナイプスキッパーは定員5名に対し6名の希望があったため、全体で話し合いを行い、最終的な調整を行いました。その結果、1名が470スキッパーへ移ることで、各ポジションが確定いたしました。この話し合いは2日間にわたり、各ポジションの特徴や役割、先輩方の姿などを共有し合う中で、それぞれがより納得できる選択を模索しました。全員が前向きに考え、互いの希望を尊重しながら決定できたことをご報告いたします。なお、470スキッパーへ移った者は、仲間から胴上げで迎え入れられました。どのポジションにも志望者が集まった背景には、先輩方の示してくださる大きな背中があったからこそだと感じております。



日々練習に励んでいる部員の生の声をお届けします。まずは、フレッシュな一回生のお二人です。
佐藤颯(1),直井ひかり(1)



470 スkipパー

さとう はやて
佐藤 颯

広島県修道高校出身。高校まではクールキャラだったが、ヨット部に入ってスカシキャラに昇格。いつも周りに気を遣っていて、誰よりも優しいサラサラヘヤーの持ち主。ヨットへは熱心に取り組んでおり、今後の活躍に期待できる！(byひかり)

Q.これまでの部活を振り返って

A.入部してからの2ヶ月間はホッパーに乗って、先輩にヨットについての知識を教してもらいました。同回に経験者がいたのでたくさん質問して、ヨットの奥深さに強く惹かれるようになりました。最後のホッパーレースでは何回か一位を走ることができて、ヨットのことがより好きになりました。

Q.自分のポジションを選んだ理由

A.新歓の時は、470のクルーに乗った時にトラップーズに惹かれて、入部したら470クルーになろうと思っていましたが、ホッパー期間を通してティラーを動かすことの楽しさに気づき、スキッパーを志望するようになりました。また、470は、速くてスピニングがカッコいいところが好きです。

Q.平日していること

A.朝起きて、大学行って、飯食って寝るを繰り返しています。たまに、京都で浪人していて夏から勉強ガチると豪語している友達の家でJOJOを観るというイベントが発生しますが、基本的に暇です。もっとキラキラした大学生生活を期待していましたが、怠惰な自分には向いていないようです。

Q.今後の目標

A.今後の目標は、とにかく早く先輩たちと対等に語り合えるくらい上手くなることです。470はスキッパーの腕次第で艇速差がでやすいため、経験者との差が埋まりにくいですが、これからたくさん練習を重ねて、コントロールシートなどまだ知らないことを早く覚えて、先輩に認められるようになります。



snipe クルー

なおい ひかり
直井 ひかり

千葉県市川高校出身ルン系女子、直井ひかり。彼女はいつも明るく、周りを元気にしてくれるので93期にとって、なくてはならない存在である。今後の活躍に期待だ。(byはやて)

Q.これまでの部活を振り返って

A.4月に入部してから7月まで、ホッパーに乗ってヨットの基礎を学びました。まだ表面的な理解にとどまっていますが、座学や練習を通してヨットの奥深さや魅力を感じました。風を受けて進む爽快感がとても心地よく、楽しく活動できました。同期をはじめ、新しい仲間と出会えたことも嬉しかったです。分からないことも多いですが、部員として少しでも力になれるよう努力してまいります。

Q.自分のポジションを選んだ理由

A.スナイプクルーを選びました。初めて試乗会でスナイプを見たとき、迫力のある見た目と惹かれ、いつか乗ってみたいと思っていました。その中でもクルーを選んだのは、コントロールシートの操作に挑戦してみたかったからです。ホッパーでの練習も楽しかったのですが、ダブルハンドに乗るのもとても楽しみです。これからご指導のほど、よろしくお願いします。

Q.平日していること

A.毎朝ギリギリまで寝ていて、爆速で自転車を漕ぎ授業に向かいます。たまに遅刻してしまいますが、なんとか耐えています。帰宅後は課題を済ませてから、溜まり場になっている同期の家に集まり、だらだらします。暇な日にはランニングしたり料理をしたりします。充実しているのかよくわかりませんが、毎日楽しく過ごしています！

Q.今後の目標

A.自分が先輩方を見て「カッコいい」と感じたように、私もそう思ってもらえるようなクルーになりたいです。そのために、日々の練習を大切にしながら、技術と知識を一つひとつ身につけ、チームの戦力として貢献できるよう努めてまいります。まだまだ未熟ではありますが、目標に向かって精一杯努力し、着実に成長していきたいです！

日々練習に励んでいる部員の生の声をお届けします。続いてはついに先輩になってしまった二回生の二人です。
三井啓輔(2),金澤奈津(2)



470 クルー

みつい けいすけ
三井 啓輔

部員全員から愛されている啓輔。彼の周りには部員は、もれなく笑顔になる。誰よりも人の気持ちを考えられる高身長イケメンだが、スマホが海水で使えなくなるなど、不慣れたエピソードも多い。

また、「出艇着を揃いにしよう」と、練習前日の夜にある部員にLINEを送るなど、お茶目な一面も魅力のひとつ。(byなっちゃん)

Q.これまでの部活を振り返って

A.ヨット部に入学してから1年以上が経過しました。入学当初自分は、部活に入るとは無かったのですが、何気なく行ったヨット部の新歓で、他の団体には無い和やかな部の雰囲気、勢いで入部を決めました。琵琶湖での生活や、ヨットという乗り物、生まれも育ちも全く違う人たち、全てが新鮮で輝いて見えました。優しくかっこいい先輩方や、いつでも笑い合える同期、遠くから支えてくれる家族など、本当にかげえのない仲間、恵まれ、今となってはヨット部は僕にとっての居場所です。

Q.尊敬する先輩

A.僕が尊敬する先輩は、91期470スキッパーの丈さんです。丈さんとは、レースシーズンの後半をペアとして一緒に乗せていただきました。急にペアが代わった上、後輩と乗ること自体とても大きなハンデであるにも関わらず、丈さんは文句ひとつ言わず、優しく指導してくださいました。陸での穏やかなイメージが強いですが、沖での丈さんは誰よりも真剣で、その姿勢から多くのことを学ばせていただきました。丈さんとペアを組んだこの1ヶ月間で、自分の力不足を痛感しつつも、大きく成長することができました。本当にありがとうございました！

Q.思い出のレース

A.僕にとっての思い出のレースは、5月11日に行われたポイントレースです。当時自分はヨットへの自信を失い、モチベーションも低くなっていました。そんな中1レース目の1上でジブハリが切れてハーバーバックすることになり、完全に萎えてしまい、ペアの祥太郎の前で船の文句やら、配艇の不満やらをぶちまけてしまいました。その時祥太郎に、本当に全てをヨットに捧げていない人間にそれを言う資格は無い的なことを言われて、ハッとしました。同期の誰よりも自主練に行き、ヨットに賭けている彼の言葉にはとても重みがありました。最初のペアが祥太郎で、本当に良かったです。

Q.今後の目標

A.クルーとしての目標は、「誰と乗っても走らせられるクルー」です。これを達成する上では、ヨットの技術ももちろん大切ですが、日頃からペアと良いコミュニケーションを取ることも大事だと思っています。部の一員としての目標は、自分に居場所をくれたこの部活に恩返しをしたいです。例えば、日頃の声掛けとか、積極的に行動するとか、そういう小さな行動の積み重ねで示していきたいです。あと、優しい先輩になりたいです。



SNIPE クルー

かなざわ なつ
金澤 奈津

なっちゃんは、ヨット部随一の聖人です。いつも周りを見て何をすべきか考えられる人で、誰にでも優しく、明るく接してくれます。たぶん笑いのツボが割と似ていて、自分のしょうもない冗談も笑って聞けるので、とても話しやすいです。同じ文学部魂を感じます笑。あまりに優しいので、たまに尖ったことを言ってくれと安心します。ヨットに関しても、同じクルーとしての悩みなどを共有したりして、色々参考に使ってもらってます。怪物だらけの92期には欠かせない人間なので、これからもよろしくお願いします。いつもありがとう！(byけいすけ)

Q.これまでの部活を振り返って

A.入部してからの1年はあっという間に過ぎていきました。スタート前に沈んで圧倒的ビビリをとったホッパーレース、無風でも琵琶湖に浮かんでるだけで楽しかった夏合宿、毎日吹く強風にビビリまくっていた春合宿など、全て昨日のことうです。同期とペアを組んで出た強風下のポイントレースで、ふと「夏合宿では少し風が上がったら出艇中止になっていたのに、今では強風のレースを走り切れるまでに成長したな」と、ひとりしみじみとしていました。

Q.尊敬する先輩

A.私が尊敬する先輩は、スナイプリーダーの岨さんです。レース前のスナイプミーティングでの岨さんのお話は、毎回私のやる気を引き出してくれます。また、私の相談も丁寧に聞いてくれて、最終的に前向きな気持ちにさせてくれます。さらに、岨さんのゆるっとした雰囲気のおかげで、緊張しすぎることなく自然体でいられる環境が、私にとってとても心地よいです。七大戦でスナイプ優勝の賞状を手にした岨さんの姿がとても格好良かったので、その姿をインカレでも見られるよう、私は陸でのサポートを頑張ります！

Q.思い出のレース

A.思い出のレースは7月に石川県で行われた個人戦予選です。1日目は高い波の影響で92期は全員ハーバーバックとなってしまいました。2日目の艀装中、「スタートをしっかりと出て、コースはシンプルに、帆走に集中する」という目標をペアと立てて臨みました。その結果、スタートが決まり、1上8位で回航することができました。そこから順位を落とすことにはなりましたが、レースシーズンの最後にいい景色を見れたのがすごく印象に残っています。

Q.今後の目標

A.今後の目標は、「自分が納得できるレースにする」ことです。現在は、コース取り・帆走・動作などにおいて、何となく感覚で乗ってしまうことが多いので、「どこで自分が伸びたのか」「どこで他艇に伸びられたのか」といった点を意識しながら、一つひとつに根拠を持ったレース展開ができるようになりたいと考えています。また、下級生教育も始まるので、ヨットの挙動や別ポジションへの理解も深めたいです。

休日の過ごし方

お世話になっております、2回生スナイプクルーの和田幸多朗です。本日は自分の休日での過ごし方について報告します。

最近自分が休日によくやっていることはvirtual regattaというヨットレースのゲームです。現実では上回生に技術面で敵わないのでレースで勝つことはなかなか難しいですが、艇速が全く同じVRIにおいては自分のコースが全てなのでどんなにヨットが上手い人にも自分のコース次第で勝てるチャンスがあります。私は去年の夏頃からこのゲームを始めており、最近部内で2度程VRI部内戦が行われその中で自分は6位と8位という微妙な結果に終わってしまいました。今は8月中旬に行われるVRI学生団体戦に向けて一緒に出る1回生を教育して団体戦で結果を残し賞金を手に入れることを目標に頑張っていきたいです。

これからも精進して参りますので京大ヨット部へのご支援ご協力の程、よろしくお願いいたします。ここまでお読みになって下さりありがとうございました。



思い出のマネ飯

お世話になっております。4回生マネージャーの吉塚千尋です。私の思い出のマネ飯は、1年生の頃に作ったロコモコ丼です。コロナ禍からのマネ飯復活で、まだ成長過程にあったマネ飯作りでしたが、約70人分のロコモコ作りに挑戦しました。ハンバーグ作りは初挑戦で、工程の多さに苦戦し、マネ飯到着が前代未聞の40分遅れになってしまいました。せっかく作ったロコモコでしたが、私は落ち込みすぎて、完食することができませんでした。



思い出のレスキュー

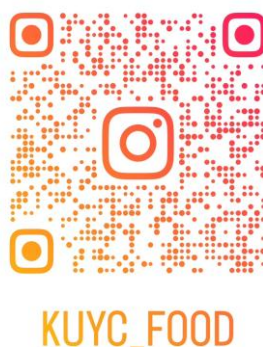
お世話になっております。4回生マネージャーの伊藤萌です。思い出のレスキューは、1回生の春合宿でのある一日です。その日はスナイプチームのレスキューに乗り、琵琶湖大橋付近まで行くことになりました。紫電ではヨットに追いつけないほどの強風の中、1回生のみでレスキューに乗りました。全身びしょ濡れになったり、船酔いに襲われたりと大変なこともありましたが、その経験は、私にとって忘れられない冒険となりました。



他にも公式のInstagramのアカウントとは別に、今まで作ってきた紹介しきれないほどのたくさんのおいしいマネ飯を発信しているインスタのアカウントがあるので、是非そちらもご覧ください！

右のQRコードを読んでいただくか、
https://instagram.com/kuyc_food?igshid=MzRIODBiNWFIZA==

こちらのリンクから飛んでいただくと閲覧可能です。



京都大学体育会ヨット部
滋賀県大津市鏡が浜番外地
京大ヨット部艇庫

[hp] <https://www.kuychome.com/>
[mail] kuyc.contact@gmail.com

https://twitter.com/kuyc_

https://www.facebook.com/kyoto_sailing/?fref=ts

https://www.instagram.com/kuyc_food?hl=ja